平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 013	**提案機関名**	横須賀三浦地域県政総合センター

要望問題名　野菜残さの簡易処理方法について

要望問題の内容　【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

＜背景＞

野菜残さの処理については、堆肥化技術が確立しているが、設備投資等の問題があり、十分な普及には至っていない。

三浦市内では、収穫後の野菜残さ等が毎年約8万t発生しており、その一部は不法投棄されるなど環境行政サイドからは問題視されている。

＜内容＞

近年、硝酸性窒素対策として緑肥作物の導入が進められているが、すき込み後に分解を促進させるための資材などが利用されている。

こうした資材の活用等を含め、野菜残さをほ場内で簡単に分解、処理するための技術や方法について、情報提供や検討をお願いしたい。

＜対象地域・規模等＞　横須賀三浦地域

解決希望年限	①1年以内　[②2～3年以内]　③4～5年以内　④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	[①農業技術センター]　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター

備　考

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	三浦半島地区事務所

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　[④実施済]　[⑤調査指導対応]　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

野菜残渣処理対策の検討ースイカ、ダイコン残渣の圃場内での堆肥化（H16 年度）

対応の内容等

ご指摘のとおり、野菜残さ処理については、堆肥化施設がなかったり焼却できないなどで圃場内での処理を余儀なくされるケースがあります。 特に水分の多いスイカやダイコンでは鋤込みも難しく、適正処理が困難です。そこで当所では、平成 16 年度にスイカ、ダイコン残さの堆肥化について試験を行い、成績を発表しておりますので、参考にしてください。また、平成 22 年度からは硝酸性窒素対策として夏期の緑肥栽培試験を行っており、現地で使用されている発酵促進材の緑肥分解や土壌理化学性への有効性についても検討しておりますので、試験結果についても情報提供してまいります。

解決予定年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内

備　考